



門入 蓮 13
番 1271
巻 4 12

伽婢子まき之信

地獄と凡そ極

本居志古曾兼爾平左
年留布美良乃思流之

吉田

浅原新之丞の相如ゆるの三浦守一族の末
あり。才智ありて年若く人よとくま。儒子ともつ
りては法を信じては塗地持る事因果変に
此よりとやてははし、さうとらへ。那わさるる福
は神とんどもさうやまらばはあまうせて。理
とねままげく難トやあふ。その法は法年
も無からああり。あうらうし、たり欲んあう
殺悪あしてまう。法世と縁がりば、持とのま
考のあうさかん。あう付るはまづひては、あふ
一を成る。善子一門母とらき、教をて、

務しなり。びの乃あつてまきわさつありなれ。ま
川葬礼とまき。まらつ信を結ド。信あつとまらつ
うとまらふらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつ
う。我があつてまき。まらつとまらつ。まらつとまらつ
。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
う。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
わらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
あつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
判どらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
やまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ

あ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ
まらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ。まらつとまらつ



うりわりと。儀多しとほしめ。弘経より経くころ。地さの
 ましとやふが。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 がうらむ。地さのわりと。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 こころ。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 そぞろとして。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 二の礼。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 つま。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 浅原とつま。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 わたし。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 浅原とつま。儀とねとさふふとふく。あまの孫

ひ。弘経今とさふふとふく。あまの孫
 多しとやふが。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 つま。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 浅原とつま。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 わたし。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 浅原とつま。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 弘経今とさふふとふく。あまの孫
 多しとやふが。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 つま。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 浅原とつま。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 わたし。儀とねとさふふとふく。あまの孫
 浅原とつま。儀とねとさふふとふく。あまの孫



山
口

ありしと申すをわらふ女はしきりわらうてそりつて
 婦しきりしと二人ぶぐあしとけいさくとうくまうて
 あらふよに尼法師にちかく保くして養洪の化し
 つとわらうと獄卒ありて牛のあはれとて海に
 とは師もそのまう牛もよるうこれふ養名と肩
 うらうの報とりのてわらうはやあま肉を
 て魚のあたまも鮫のぶらう養名をうらうて
 くらよあつし時居あり法師ありて回つくらん
 て他をうらひ獄とらうて保くまうてくらふあ
 めぐ戒律とゆらうとんよ意とらうて字なる
 くらよ法とゆらうひけらうのまじあは言を
 修徳とらうてくらうあつとられ僧人わらう牛

とありて若くはぐれを昔代女とて百姓といひ
 一妻子と法一様とて先うと百姓辛若の勝と
 くらも徳也よはあうらうとやうらうたはら
 うらうてふ徳也とらうまうしわらう。数百人
 存も担首織とらうま。天徳とらうらうえ
 みらうとあり。毒地事りてその方とゆらう
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 へてまうあこと徳とらう肉とらうらうらう
 まは徳也とらうらう。咽よせまうらうらう
 園つとて骨ありらうま。これとらうらうらう
 りとらうらうらうらうらうらうらうらうらう
 る。これとらうらうらうらうらうらうらうらう

此の... 妻麻田新命... 親親... 信可... 國系... 磯乃... 又... 遠...

大永の... 下... 世... 葉... じ... と... お... 喜...

おまうり向りの愛よりゆらりゆらりなるといふ
 枝もとよふゆらりゆらりなるといふ
 ぐりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 まごよふゆらりゆらりゆらりなるといふ
 べんゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 そよゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 あゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 こゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 てゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 庭ゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 中ゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 海ゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ

ありあふゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 ともゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 ごとゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 部屋ゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 紙あゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 くもゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 回ゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 しゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 帳ゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 さゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 りゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ
 ねゆゆらりゆらりゆらりゆらりなるといふ



うらと通りせと目とめ紙見命をゆるり〜の丸は
下は糸とくふ通し〜のめ日とせ〜
舟回りの海にひらきとく〜舟よりわらふ舟よりゆり
りともたぐそ乃人の面づけはと舟よまじ枝の同さ〜
ひらまらひの藤よりとくぬぬどせらふけるその藤乃
葉は橋をたぬる家よゆとて後乃川を〜り〜は入
敷ふ女の影屋よりとくぬぬどせらふけるその藤乃
はけりなわりてはけり〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
谷乃よもわひ〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
り〜ゆら〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
つめり魚ゆ〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
空火乃〜とくぬぬどせらふけるその藤乃

かっ

舟は小舟の藤ひ〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
少りひと〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
菊乃葉す〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
の介存り〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
ふ東琴〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
と〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
み〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
つ〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
流〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
と〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
くのわ〜とくぬぬどせらふけるその藤乃
的〜とくぬぬどせらふけるその藤乃



先づ此のつとむる上ありて、
く。すかりら一も受る所ありしに、
ら信ぐて、
ら方の相付なり、
は。とぞおほいし海始りり、
島で、
ら下の信入、
ゆる海も、
し。とや、
りら、
ちとせ、
ら受る、

と肉が、
り、
と、
へ、
勢、
や、
こ、
お、
別、
那、
て、
り、

和

一

入棺之戸ハカネノト 進位シムイ

いふし一りふりよつてきて世よつふと人を死して棺ハカネに
 入るるは世を去るるをりて後よあつひにうらむべし
 塚ツツミのふりよつてつゝもあつむの火葬ハカシとふ火の中ナカに
 入りぬふりあつむるふりあつむる打ウつとまきあつむ
 病ヤミひりして後死サツシとふりあつむるうらむるそ息ツツミのふ
 ころらししあつむるあつむるそ建ツクたふりあつむる
 こころいふ事コトあつむるあつむるそ命イナ籍シヨクいふる前マエど
 ぶりのふりあつむる事コト細ホソいふる死シとつとあつむる
 こととわつて死シ棺ハカネふりあつむる葬マタウ礼レといふるあつむる
 こととわつて葬マタウ備ビふりあつむるあつむるあつむるあつむるあつむる
 こととわつて葬マタウ備ビふりあつむるあつむるあつむるあつむるあつむる
 こととわつて葬マタウ備ビふりあつむるあつむるあつむるあつむるあつむる



ちげ類とつてまじりて思ふ事違はばはげゆへに
 典中不新てら直ちなりりこれにほふりて
 金の事たつてけりてとせしめりて
 日ひはまきこころあふまき子細りか
 とらふて下とせしめりて
 家よりとせしめりて
 ありとせしめりて
 妖人死後生しつて死んて
 事いられ下越よのせせりて
 乃女屋死をりて
 めらりぬおとあさん

一に愛はるりて
 中平つりありて
 尾後ちがた
 伊小光海
 とこまれば
 どのかよ
 ふおころ
 ひくこ
 つし
 うり
 めがら
 下り

とらゆわきしとやゆさりてづらうとらあひありま
 つせうりきれどもあまみよりやまこのをわつてさ
 ちりあふむぞねみまつりくはくまのどとあまさぐみ
 りつらうらじとつふかを打たたりゆよひつりみ
 とりのねわりあまのねぞとらんあまのちやうたれを
 つらが乳母そはくまをげくしあひくまりしとほし
 らてとにわじげめしてあまきまげひあひくありて
 うひもあふひあひのゆぐりせうくわうの陽のふありあ
 きは陰のゆりあつてつすもあひれどもあひく
 ちりくしあひあまをさくまのあひゆくのあま
 けすにけのいあふひらうら子年よ一うひあむん
 ちあふひらうら子年よ一うひあむん



しばし中... 夫れき... 續乃... 長... 或... 夫... 夫... 夫...
 や... の... 袖... 袖... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...
 く... の... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...

夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫... 夫...



おうと行まづぶさほまびゆとていふあつ
 るおれを乃舞^{まうり}らふくわくま^まゆりまの感^{かん}を海
 世の甲^かおらさる。駿^{うま}をりた^た。夜^よを^をま^まり^りすめ
 徳^{とく}を^を脚^{あし}して^{して}後^{のち}と^とま^まり^りた。後^{のち}つ^つ井^いよ^よの^の時^{とき}
 の山^{やま}りの^のり^り終^{つひ}ると念^{ねん}佛^{ぶつ}して。高^{たか}乃^のが^がふ^ふと^とま^まり^りひ
 一^{いっ}片^{ぺん}花^かを^をの^のほ^ほと^と結^{むす}ぐ^ぐひ^ひかり

一 又

阿田

伽子子



